

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL073(431)1411
FAX073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

| | | | |
|----|--------------|----|--------------|
| 橋本 | 0736(32)0063 | 新宮 | 0735(28)1751 |
| 海南 | 073(482)0675 | 御坊 | 0738(22)2511 |
| 湯浅 | 0737(62)2870 | 田辺 | 0739(26)1026 |
| | | | 073(423)9291 |
| | | | 0120-468012 |

【広告問い合わせ】
【購読問い合わせ】

星の占い
マーク・矢崎
9日

中将姫会式にこども菩薩

絵と文・熱田親憲
題字・熱田秦華

熊野古道 みちのくまの記

20

熊野に通じる紀伊路として語られている。には多くの物語が伝説 中でも姫物語として、

得生寺の中将姫の物語は有名である。中将姫の命日、5月14日に来迎会式があると聞き、得生寺(有田市糸我町中番)を訪ねた。得生寺縁起によると746年、右大臣藤原豊成は、

願い叶って中将姫を授かった。しかし、実母はまもなく亡くなり、後妻を迎えた。中将姫の才色兼備と上手な琴演奏を妬む継母は、姫14歳の時、家臣・伊藤春時に中将姫の殺害を命じる。

しかし命乞いもせず、誑経を続け、おだやかな中将姫を殺めることができず、春時は出家して得生と改名。雲雀山(同)に中将姫を

畑の木々は可憐な白い花をつけ、早くも青い実を抱いて甘い香りを放っていた。近くには「定家のたどった熊野古道」を展示した「くまの古道歴史民俗資料館」や本朝最初のお稲荷さんと言われている糸我稲荷神社があり、有田地区古跡の中心地の雰囲気漂わせていた。

午後3時少し前、得生寺境内は菩薩行列。時半すぎ、太鼓、笙、笛の音に合わせて、開山堂から僧侶、紫装束の和讃、地藏菩薩、お御輿、金色の25菩薩に扮した子供たち、当山の住職と僧侶たちが西日を受けて登場。浄土である本堂までの朱色の回廊を鈴の音に合わせて和讃を唱えながら練り歩いた。回廊の足元では、僧侶が播く蓮の花を競って受ける親子の姿が甲斐甲斐し

く感じられた。回廊を渡り終えた本堂では、中央祭壇には阿弥陀如来を背にもつ中将姫が鎮座し、前には25菩薩が座り、檀家の親たちや和讃の子供たちが左右の両側を固め、住職による誑経が始まった。本堂が浄土の世界に変わった瞬間である。顔の倍ほどの菩薩面をつけた子供たちの菩薩姿は皆やさしく、良く見ると慈悲に

地域見守る 温かいお祭

匿う。姫は1000歳の写経を完成させ16歳の時、当麻寺(奈良県葛城市)へ入って尼となる。

が渡る回廊が準備され、露店は小学生や関係者でにぎわっていた。露店前でアメを頬ばっている紫色の装束をつけた小学5、6年生の女の子たちに尋ねると「今日は、鈴を振りながら和讃を唱えて練り歩く役です」と屈託のない笑顔を見せた。

本堂で檀家の方たちにお抹茶とお菓子を振る舞われた後、午後3

一丸となって開かれた温かいお祭であった。お寺が地域おこしに役も二役も買っていることに、本来の信仰の姿をみたような気がした。こんな町が日本各地に増えれば、親子の悲惨な事件も無くなっていくことだろう。



得生寺(有田市糸我町中番)にて

得生寺(有田市糸我町中番)にて

得生寺(有田市糸我町中番)にて

得生寺(有田市糸我町中番)にて

得生寺(有田市糸我町中番)にて

みかん香あふるこども菩薩の面を脱ぎ

秦華

(次回は23日掲載予定)